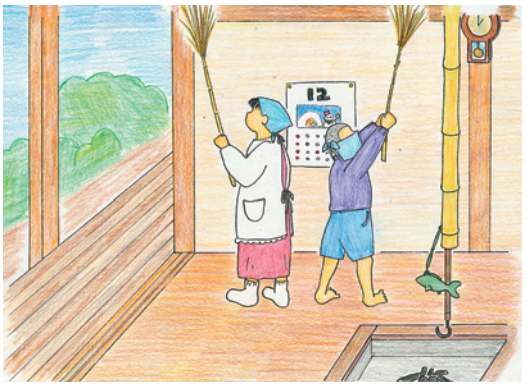
大野城市歴史資料展示室　解説シート　民俗 No.28

年 中 行 事（年末年始１）

大野城市教育委員会

大野城市周辺の年末行事の様子を紹介します。お正月準備は、お正月に歳神または家の先祖の霊を迎えるための大切な行事としておこなわれてきました。今では簡略化されつつある風景ですが、ご家庭ではいかがでしょうか？



すす払い（大掃除）：12月中ごろ、埃などを除く大掃除をおこないます。一年間の汚れを落として厄を祓い、お正月を迎える準備です。

むかしは、調理や暖をとるために使用していた竈や囲炉裏からでる煤によって、家の中が汚れてしまいました。大掃除では、竹の棒に藁をつけた道具で、天井や柱などについた煤を払い落として掃除をする「すす払い」をおこないました。

次第に、家に竈や囲炉裏がなくなると「すす払い」もなくなりました。

餅つき・鏡餅・餅花：12月終わりごろ、新年を迎えるためにお正月用の餅をつきます。ただし、29日と丑の日（干支の日）は、餅をつくのを避けました。「29」の“9”の発音が「苦」と同じと考えられたので、避けていたようです（丑の日がなぜ悪いのか、今はわからなくなってしまいました）。むかしは、米の餅だけでなく、粟・稗・黍の餅も作っていました。

餅つきでは、神様への供え用として円形の鏡をかたどった「鏡餅」を作ります。餅はおめでたい時の食べ物とされているので、餅を食べた人は良いことがおきると考えられていたようです。

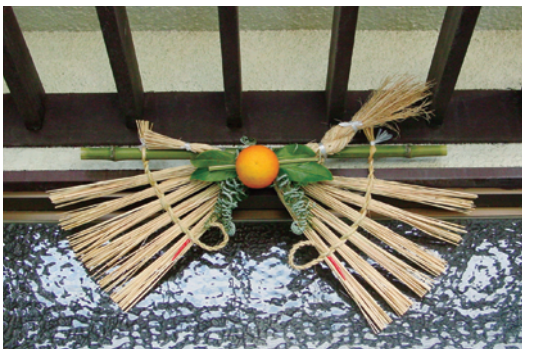
今のように奉書紙に乗せた二段重ねの飾り餅を床の間に飾るようになったのは、室町時代頃からです。棚や井戸、竈など様々な場所に餅を飾り、神様への供え物としました。

また、お正月用の餅をつくとき、この年に長女が生まれた家では「餅花」を作りました。柳の木の枝に餅を小さくまるめてつけ、柱にくくりつけます。そして、文字を書いた短冊や手づくりのマリなども下げて、女の子の成長を祈り、初正月を祝っていたようです。

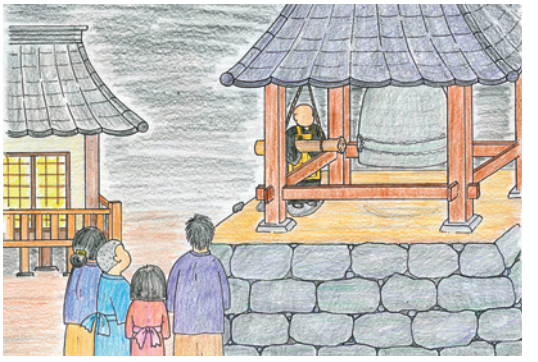
塀の建て替え・門松（松・竹・梅）：12月終わりごろ、隣の家との境（仕切り）である竹の塀をきれいに建て替える作業をしました。また、牛頸では、「ワカギムカエ」といって、軒に届くほどの大きな松の木を伐り、軒先に立てる家がありました。いわゆる門松のことです。門松を立てる地域はありましたが、雑餉隈では松ではない常緑樹を立て、上大利・下大利・白木原・仲島では門松を立てる家が少なかったようです。

しめ飾り：お正月を迎える時に、家の入口（玄関）をはじめ神棚・仏壇・台所などに、藁で作られた「しめ飾り」を飾ります。

しめ飾りを飾る行為は、神社などと同じように家の中に悪霊を入れず災いを除き、無病息災・家内安全を願うためのもの、新年の幸せを呼び込むものと考えられました。そのため、鏡餅と同じように、家の様々な場所に飾られていましたが、近年は簡素化され、玄関だけに飾る家庭が多くなりました。



また、むかしのお正月に飾られたしめ飾りは、地域によって決まった形があり、近所の家庭では同じ形のしめ飾りを飾り、「橙」・「譲葉」・「裏白」をあわせて飾りました。福岡地域では「鶴」の形をしたしめ飾りをよく見かけますが、右の写真のしめ飾りも、大野城市内の家庭では飾られています。



大晦日：晦日とは月の最後の日のことです。12月31日は月の最後の日であると同時に、１年の締めくくりでもあるため、「大」がつきます。

正月１日に神様を迎えるため身体や家・地域を清めるという考えに、仏教の考えが混じり、「除夜の鐘」で煩悩を払うという行事が、室町時代頃からはじまりました。

そして、地域によっては、「細く長く生きられますように」と縁起を担いで、「年越そば」・「運そば」を食べる風習もあります。

ほかにも、結婚して初めての正月を迎える時に、お婿さんの家からお嫁さんの実家へ鮮魚（鰤など）や餅を送る風習や、長男・長女が生まれて初めて正月を迎える時に、お嫁さんの実家から破魔矢（男の子）や羽子板（女の子）を送る風習などが残っている地域もあります。

【参考文献】大野城市教育委員会『大野城市歴史資料展示室解説シート　民俗No.１・４・22』
大野城市『大野城市史』・春日市『春日市史』・太宰府市『大宰府市史』
石田繁美編『家族で楽しむ日本の行事としきたり』ポプラ社2005

（H24.03）